

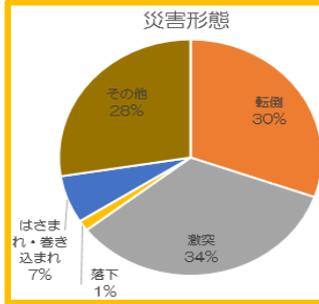
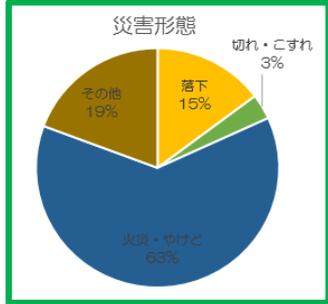
危険有害性情報の「見える化」

KYTによる危険有害性情報の「見える化」

KYT活動

労働災害を防止するために、作業現場を題材に下記特徴を有したKYTを実施し、不安全状態・行動を見逃さず、潜在リスクを取り除く活動を展開している。

- ・実際の作業現場を対象としている。
- ・抽出された危険要因を低減する対策も作業員自らが起案し、安全意識の向上を図っている。
- ・対策案から現場改善を実施し、不安全箇所の削減を進めている。
- ・潜在リスクと対策案を掲示することにより、全社員を対象に危険予知のポイントを啓発している。



潜在リスクを災害形態ごとに集約し、起こりうる災害の傾向を把握



潜在リスクと対策案を掲示し、危険予知のポイントを啓発

災害形態	危険要因	対策の提案
1 火災・やけど	2人で作業を同時に行っているため、クラインターの火花が相手に向る危険がある。	作業時には両目を確認し、声掛け等で相手に知らせるようにする。
2 その他	水沖状態が確認できなくなるため、製品に水が掛る危険がある。	水沖使用後は、エア等で十分に乾かすようにする。
3 落下	脚の端にスプレー音が回っており、地盤等で落下する危険がある。	脚の奥のほうに足を入れるが、転倒防止をするようにする。
4 火災・やけど	火を使用して作業をしているが、押込の机の上に燃焼が回っており、火災する危険がある。	火を使用して作業する際は、押込に燃焼の可燃物を置かないようにする。
5 落下	製品が架台の上から落ちて、押込の作業員にぶつかり、足趾が落下する危険がある。	製品が架台から落ちてこないよう、クランプでしっかりと固定するようにする。
8 その他	作業員同士が近いため、押込の椅子でお互いの火花や光を浴び、目を眩める危険がある。	2人の間に遮光シートや遮光等を設置し、相手の火花や光を防ぐようにする。
7 その他	大量のほうきが回っており、歩行者以上ではないか？	28巻速をして、数を減らすようにする。
8 切れ・こすれ	窓ガラスに複数フィルムがはっておらず、地盤等で割れると危険がある。	複数フィルムを貼り、地盤等で割れて飛び出るのを防止する。
9 火災・やけど	燃焼と作業スペースの間に立杆があるので、火花等が燃焼に飛び出さないようにする。	火花シートの燃焼を調整し、火花等が燃焼に飛び出さないようにする。
10 火災・やけど	製品に燃焼した状態で長時間動作し、高温になった状態で作業をする危険がある。	冷却を取り除く際に注意して、作業するようにする。
11 その他	製品の故障が長く継続、クラインター等の作業がやり直しになる。	作業手順を再考し、製品の高さを上げるようにする。
12 その他	トンボレーンのフックが2m以上ではあるが、作業している高さよりも、もう少し上げた方が良い。	フックを高く上げるが、故障をせらすようにする。

災害形態	危険要因	対策の提案
1 衝突	トンボレーンのフックに吊具がついたまま、衝突する危険がある。	使用後は湯やがに所定の位置へ片付けるようにする。
2 転倒	道路の奥深くにボルトが設置してあり、踏んで転倒する危険がある。また、スリングついたまま、コードが道路に飛び出しており、踏く危険がある。	道路の奥深くには、足元がよくなる、溝を敷くようにする。歩行者は歩道の端まで片付けるようにする。
3 転倒	コードが道路に飛び出しており、踏く危険がある。	溝の上に飛び出さないルートコードを張るようにする。
4 はさまれ・巻き込まれ	ボルトを吊った際に、喉や腕のボルトにぶつかる危険がある。また、脚に挟まれる危険がある。	締め方、人が流れない、または踏つてはけけないように、ボルトを緩くはけける。
5 その他	パレットが重さをばねしになっている。	使用後は湯やがに所定の位置へ片付けるようにする。
8 その他	枕木裏面ではないところに、枕木がたかさん置いてある。	指定で決められたところに片付けるようにする。ここが故障であれば、換装するようにする。
7 その他	道路、作業エリア、看板が明確になっていない。	白線、真鍮等で明確にするようにする。
8 その他	溝に蓋が無く、何が置いてあるか不明である。	真鍮をして、明確にするようにする。
9 衝突	厄難の角に衝突して、怪我をする危険がある。	バンや等でガードをして、保護板を貼るようにする。
10 衝突	使用していない稼働機が出たまま放置されている。衝突の危険がある。	使用後は湯やがに所定の位置へ片付けるようにする。
11 転倒	全株材を踏んで、踏んで転倒する危険がある。	床の塗装のし直し、ライトを懸けてエリヤを照らすようにする。
12 落下	地盤の端に溝が陥ちて落下する危険がある。	チェーン等で落下防止の措置をするようにする。

実現場を題材にしたKYTによる潜在リスクの「見える化」